平成 24 年 5 月 8 日

各　　位

会 社 名　ユ　ニ　チ　カ　株　式　会　社
代表者名　代表取締役社長　安江　健治
（コード番号 3103　東証・大証各第一部）
問合せ先　ＩＲ広報グループ長　松山　裕
（ＴＥＬ　06－6281－5695）

特別損失の発生（関係会社株式評価損（個別）を含む）及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、特別損失の発生を加えた、最近の業績の動向を踏まえ、公表しております平成 24 年 3 月期業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

１．平成 24 年 3 月期通期（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）業績予想の修正

連結業績予想数値の修正　　（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（Ａ） （平成 23 年 5 月 10 日発表）	178,500	12,500	8,000	3,500	円　銭 6.34
今回修正予想（Ｂ）	174,600	9,500	5,700	1,200	2.17
増減額（Ｂ－Ａ）	△3,900	△3,000	△2,300	△2,300	―
増減率（％）	△2.2	△24.0	△28.8	△65.7	―
（ご参考）前期実績 （平成 23 年 3 月期）	180,706	10,513	6,119	2,444	5.14

2．特別損失の発生及び業績予想修正の理由

平成 24 年 3 月期の事業環境は、昨夏以降、欧州債務危機、記録的な円高などを背景にそれまで緩やかに回復傾向にあった景況は一転低迷し、高分子事業を中心に需要が減少しました。これにより、期後半の売上げが想定より乖離し、営業利益、経常利益が減少する見込みです。

また、事業構造改善費用（約 28 億円）を特別損失として計上するため、当期純利益も減少する見込みです。事業構造改善費用の主な内容は、繊維事業を中心とした子会社の事業整理に係る資産の処分費用等です。

なお、当社の個別財務諸表におきましても、事業構造改善費用（約８億円）、子会社の事業構造改善等に伴う関係会社株式評価損（約９億円）及び貸倒引当金繰入（約19億円）による特別損失が発生する見込みですが、このうち、関係会社株式評価損及び貸倒引当金繰入につきましては、連結決算上消去され、連結業績予想には影響はありません。

３．平成24年3月期末における関係会社株式評価損

当社が保有する関係会社株式について、現在の事業環境から今後の見通しを勘案した結果、一部の関係会社株式について、投資回収が長期にわたるとの判断に至り、関係会社株式評価損として個別損益計算書に特別損失941百万円を計上することといたしました。

なお、関係会社株式評価損は個別決算固有の処理であり、連結業績に与える影響はございません。

平成24年3月期第4四半期における関係会社株式評価損

（A）平成24年3月期第4四半期会計期間（平成24年1月1日から平成24年3月31日まで）の関係会社株式評価損の総額（＝イ－ロ）	941百万円
（イ）平成24年3月期第4四半期累計期間（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の関係会社株式評価損の総額	941百万円
（ロ）直前四半期（平成24年3月期第3四半期）累計期間（平成23年４月１日から平成23年12月31日まで）の関係会社株式評価損の総額	－百万円

※　四半期における子会社株式及び関連会社株式の評価方法は、洗替え方式を採用しております。

※　当社の決算期末は３月31日です。

連結純資産額・連結経常利益額・連結当期純利益額に対する割合

（B）平成23年3月期の連結純資産額（Ａ／Ｂ×１００）	25,977百万円 （3.6％）
（C）平成23年3月期の連結経常利益額（Ａ／Ｃ×１００）	6,119百万円 （15.4％）
（D）平成23年3月期の連結当期純利益額（Ａ／Ｄ×１００）	2,444百万円 （38.5％）

＜業績等の予想及び計画に関する注意事項＞

本資料における業績等の予想及び計画の将来予想に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等の結果は、今後の様々な要因により、業績等の予想及び計画と異なる可能性があります。

以　上